

VOLKSWAGEN

Jetta

'81 MODEL



ドイツ人は保守的であるという。かなくなであるという。

それが彼らの伝統であるとするれば、
時代を超えて光るドイツの先進性は
いったい何なのだろう。

ドイツのレストランで使われているグラスを見ると、口
すれすれのところに目盛りが刻んである。きっちり規
定量はいつに示すためだといえるが、ドイツ人らしい発想である。また、ドイツらしきは民家の
窓ひとつにも現われている。日本では、いま、ほと
んどがアルミ製のガラス戸が左右にスライドするだけ
だが、ドイツの窓は、昔から、両側を外に押し開け
ることも、窓の中の1枚のガラスだけを開けることもで
きるのである。つまり、ひとつの窓に3つも4つもの機
構が備わっていて、時と場合に応じて最適な開け方
が選べるというわけだ。そして写真の馬車。これは、
ルードヴィヒII世の乗ったものだ。名前の通り豪華
な馬車 (Prunk Wagen) であるばかりでなく、よく
見ると、実に機能的に造られていることがわかる。ホ
ールベースを長くとり、車室をその中央に置くことで
乗り心地を高めていること、乗り降りしやすいため
車室を低くしながら、運転席にあたる御者席を高くし
見晴らしを良くしていることなどが、その好例。いまのク
ルマ作りの立派に通用する基本的なセオリーである。
これを私たち日本人は、ドイツ人の合理性と考え、
先進性と考えたが、当の彼らにしてみれば、ただ、
どうしたら最も使いやすく、暮らしやすいかをひたすら
考えてきた結果に過ぎないのだ。しかし、そのきわめ
て明快なものの方、考え方が、時代を超え、民
族性として受け継がれ、積み重ねられていった時、
それは、ちょっとやそつではまねできない、確かな先進
性となるのである。



ルードヴィヒII世の豪華馬車(ニュンペンブルク・マルスタット博物館)

最も新しいフォルクスワーゲンは、最もオーソドックスなカタチを持っていた。

先進の思想が、伝統のフォルムに。

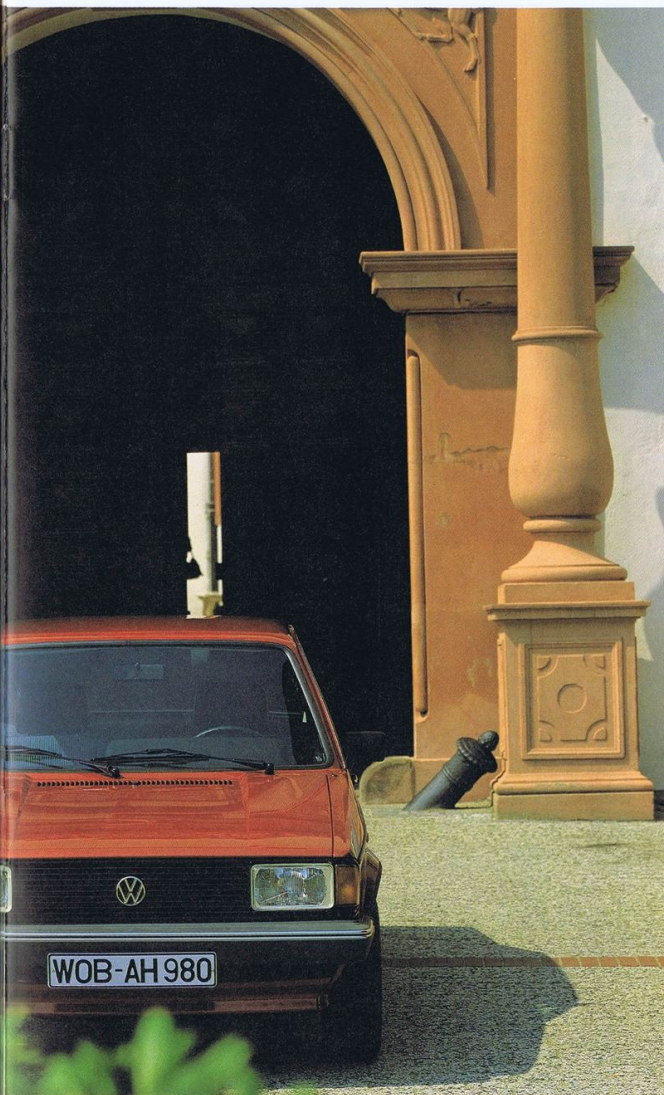
1981年の風、ジェッタ誕生。

フォルクスワーゲンは、次にどんな旋風を巻き起こすのだろうか。人々の熱い期待に答えて、いま、新しい解答が届きました。ジェット気流を意味する言葉、「ジェッタ」と呼ばれるクルマの登場です。このジェッタを語る時、やはり私たちは、フォルクスワーゲンの歩んできた伝統ある道をふり返らざるを得ません。1936年に発表されてから30年以上にわたって、世界のベータシッカーであり続けたあのビートル。そのテーマは、おとな3人と子ども2人のための十分なスペースを持ち、性能がよく、長い使用に耐える頑丈さを持ち、しかも経済的な大衆（フォルクス）のためのクルマ（ワーゲン）をいうことでした。そしていま変わらぬこのテーマに、ラゲッジスペースの確保と、より高い走行性、安全性というファクターを盛りこんだクルマが、1974年に発表されました。それが、いまFF+ノッチバックというジャンルに市民権を与え、世界中の人々に愛されているゴルフです。そして、フォルクスワーゲンは、新ためて、FF+ノッチバックの新鋭、ジェッタを誕生させました。この端正なノッチバックスタイルは、5人のおとなが乗って、なおたっぷりとしたラゲッジスペースを確保するための、いわば必然のフォルム。しかも、1700ccフェウエルインジェクション付SOHCエンジンもたらすハイパフォーマンスは、ヨーロッパ大陸を縦横無尽に駆けめぐるコンチネンタルツアラーとしての資格を決定的なものにしています。フォルクスワーゲンの新しい風、ジェッタ。あなたの確かな目で、どうぞ、存分にご検討ください。

Jettaはジェットストリーム

ジェッタとは、緯度30〜40度の上空1万メートルを西から東へと流れるジェット気流（ストリーム）のこと。ジェッタのしなやかにダイナミックな走行感覚が、この神秘的な風の流れに包み込まれた名前にあらわれているのです。





デザインのためのデザインなど微塵もないのに、美しさにゆとりがある。

それはセンスの違いなのだろうか。

厳然とキャリアの違いなのだろうか。

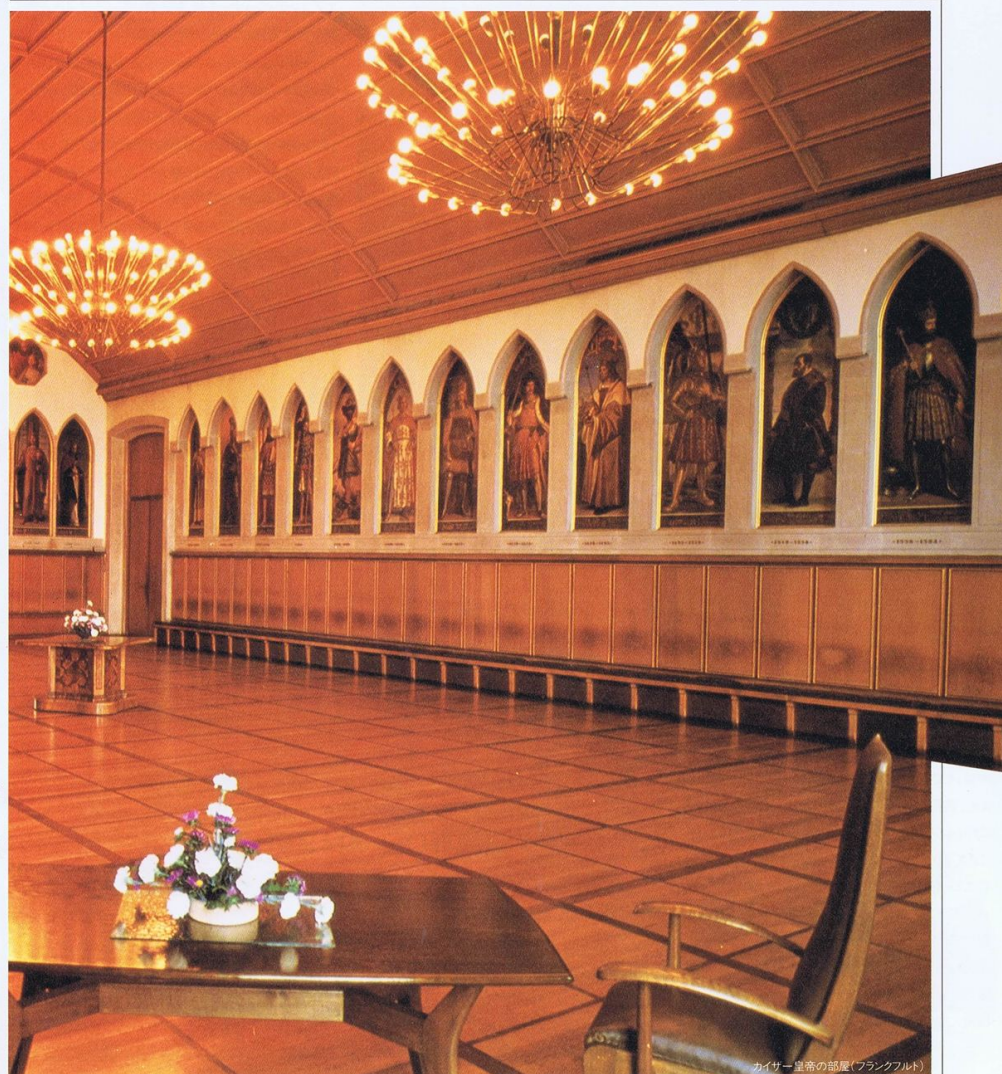
ひとつの、あるいは複数の機能を最適な形で果たすためにはどうすべきなのか。彼らドイツ人たちの思考は、つねにこうした問いから始まる。ジェッタのきわめて洗練されたスタイルも、いさば必然から生まれたもの。フロントからリヤへ、鮮やかなウェッジシェイプを描くフォルム、フロントビューを引きしめる角型ヘッドライトやスポイラー型フロントエプロン。それらは、空気抵抗を最小限に押えながら、トランクルームをも含めた広いユーティリティスペースの確保を実現するためのカタチです。ジェッタの伝統的でありながら実に個性的なスタイルは、ダイナミックな走り、家族のための快適空間を両立させた、いま、最も新しいものといえます。



聖書の時代から、ドイツ人は椅子のある暮らしを営んできた。

彼らにとって椅子は
家具であることを超え、
くつろぎの象徴なのだ。

椅子が生活の道具として日本の家庭に定着してきたというものの、彼らの持つ歴史に較べるとそこに大きなへだたがりがあるのは事実。食事をするには、どんな椅子がふさわしく、またテーブルとのかねあいだろうか。家族でくつろぐソファは、書き物をする時は、そして、読書にふける時は。それぞれに最適の椅子を、彼らは、気の遠くなるような長い伝統の中で発見し、育んできた。彼らにとって椅子はもはや道具ではない。身体の一部であり、生活にやすらぎをもたらす生涯のともいうべき伴侶なのだ。



カイザー皇帝の部屋(フランクフルト)

アウトバーンをたどり、1日に1000km近くを走破するコンチネンタルツアー。

ジェッタの室内は、
そうした状況の下でも、
つねに変わらぬ快適さを保証する。

ヨーロッパの中心に位置をなすドイツは、北へいくとも南へいくにも、きわめて都合のよい国といえます。しかも、国内には、ドイツが世界に誇る高速道路アウトバーンが、縦横無尽に走っているのです。一般の道路もよく整備が行きどいており、交通標識や案内板の類も、文字通り一目瞭然、解りやすい絵柄でそこに立っているため、行きずりのドライバーでも、道に迷う心配はまずありません。このように交通事情がよいこと、誰もが長い休暇をとれることなどが、ドイツ人たちを、1か月、2か月、1000km、2000kmという長距離ドライブに駆りたてる理由なのです。そして、こうしたドライブを快適なものに終始させるのが、疲れないシート、広い室内、たっぷり積めるラゲッジスペースなど。新登場のノッチバックセダン、ジェッタには、こうした状況の下で、つねに変わらぬ快適さを保証するための設計が、いたるところになされています。そのすべてを、ご紹介しましょう。



ぶあつく、かたいフロントシート

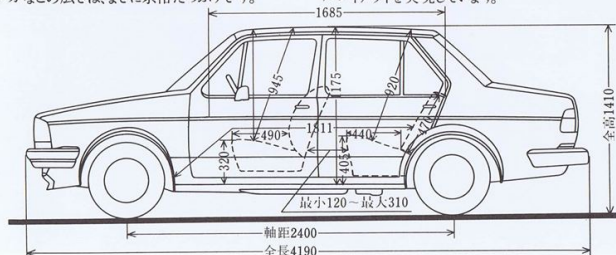
フラットなバックレストが光る、余裕のリヤシート

ノイシュヴァンシュタイン城(シュヴァンガウ)

SILVIA

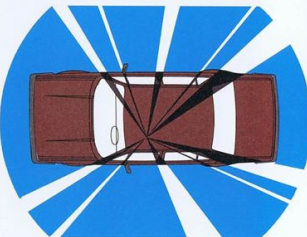
ペダルレイアウトにも、細かな配慮

微妙なペダル操作にも、すばやく的確に反応するアクセルペダル。ひんばんなブレーキにも疲れを感じさせない適度な踏み応えを備えたブレーキペダル。FF方式ならではの広いレグスペースから最適なドライビングポジションの基本となる理想的なペダルレイアウトを実現しています。



さすがFF方式、広いリヤレッグスペース

パイプアラインをエンジンルーム内に集中させることのできるFF方式のメリットは、リヤのレッグスペースの広さにも現れます。フロアシールドがないため、フロアは広いばかりでなくまっすぐいっていいほどフラット。つまり、リヤシート中央に乗る方も、足をそろえて、いちばん楽に過ごせる姿勢をとることができるというわけです。



機能性がそのまゝカタチに

インストルメントパネル

国産車のオーバーデコラティブなインストルメントパネルを見慣れた目には、ジェッタのインストルメントパネルは、いささかあっさりすぎているかも知れません。しかし、実際に運転してみればおわかりかと思いますが、このシンプルなレイアウトは、人間の心理にまじりこめて造られたものなのです。目で読み取れる大径のスピードメーターやタコメーター類。絵表示のウォーニングランプ類とスイッチ類。ドライバーは、特別意識することなく、クルマが提供する情報をあつちよるだけで済みます。150km/hが巡航速度というのが常識のオートマーションを走るクルマだからこそ、ムダを省き機能に徹したインストルメントパネルが必要なのです。

イージー&スポーティ、3速フルオートマチック

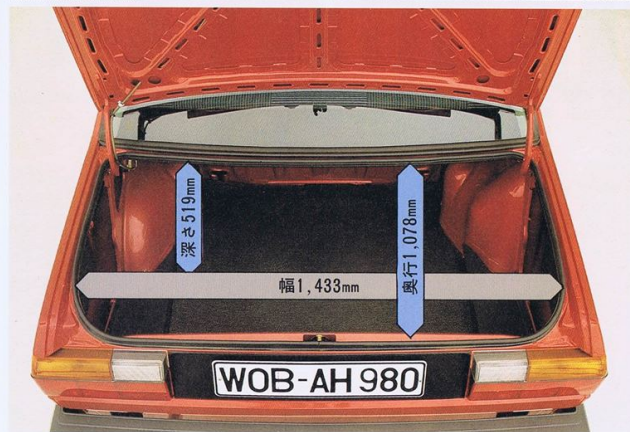
ジュეტタは、3速フルオートマチックトランスミッションを標準装備。アクセルとブレーキペダルのON・OFFだけで、クルマは、ドライバーの意のままに、走り、停まります。日本の混雑した街中でもいれぬ神経を使うことなく、快適なドライブができてしまうわけ。また、1・2-Dの各レンジを使えば、マニュアルミッション車顔負けの、スポーティでダイナミックなドライビングを満喫することができずす。



エアコンディショナーを標準装備して、

爽やかな室内は、さらに爽やかに

ジェットのパベンレーションシステムは、100km/hなら、わずか20秒で室内の空気を入れかえ効率の良さ、また北海道よりさらに高い緯度にあるイソンの冬は、マイナス15°~20°という日珍しくない、厳寒の季節。そうした風土に鍛えられたヒーターは、実に強力です。しかも、湿度も温度も高い日本の夏に備えて、エアコンデションよりも標準装備、日本の四季をジェットで存分に楽しむべし。



奥行きの深さは驚異的。大容量630ℓのトランクルーム

身のまわりの品いっさいを預みて、ヨーロッパ大陸のすみずみまで駆けぬぐるコンテナ・トラック。長期旅行を年中行事のひとつとしていたドイツ人にとって、頑丈なトラックケースがなくてはならない。トラク・ルームは、まさに必需品。ジェッタのトラク・ルームは、こうした背景から630^{リットル}の大容量を持つことになりました。もちろん、広いばかりではありません。ぎざり詰まった重く大きなトラックケースの出し入れに便利のように、開口部は広く、奥行き、深さたっぷりとしてくれます。また、トラク・リッドのヒンジには、左右にコイルバネを装着。滑らかな開閉操作ができるように配慮されています。※ヨーロッパ方式

Jetstream from

West Germany

ジェットストリームと呼ばれる
フォルクスワーゲンの最新ノッチバックカー、ジェッタ。
制限速度のないアウトバーンを疾走し、
ラリーの舞台ともなるアルペンロードを
駆け抜けることを前提として開発されただけに、
その走りは、あくまでもダイナミック。
ひとたびジェッタを操った時、
あなげは、走ることに
新たな感動を覚えることだろう。



ドイツ人のからくり好きは、果てしなく過去にさかのぼる。

それは、メカニズムに
人間の心をうつしこもうとい、
彼らの温かい伝統にはかならない。

.....
ドイツのからくりで思い出されるのが、ミュンヘンの新市庁舎にある「樽屋踊り」と、ローテンブルグの市庁舎にある「マイスター・トルンク」のふたつのからくり人形だろう。ミュンヘンのそれは、1571年、ミュンヘン地方をおそった黒死病（ペスト）に意気消沈している市民を元気づけようと、樽屋職人たちがコミカルな踊りを踊って歩いたという話に因んだもの。ローテンブルグのものは、30年戦争の時、戦いに負けたローテンブルグの市長が、敵の將軍のさし出した大がめのワインを一気に飲みはして、市の危機を救ったことを記念してつくられた。ドイツ人はからくり好きである。そしてそれ以上に、人間の温かな心をいつまでも忘れずにいたいという、きわめてヒューマンな国民なのである。ドイツのメカニズムには、愛がある。



マイスター・トルンク（ワインを飲む市長）のからくり人形（ローテンブルグ市庁舎）

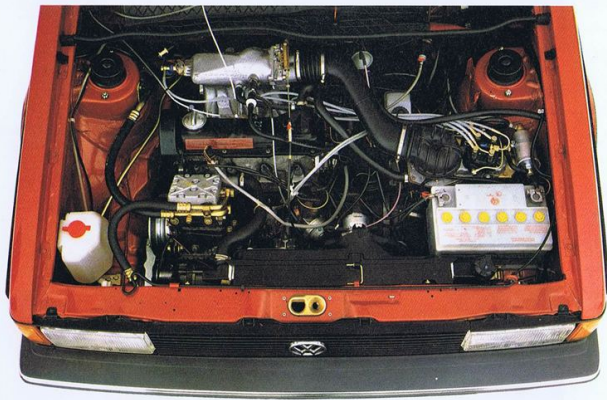
ジェッタのハイ・パフォーマンスを飽くことなく発揮できる道が、この日本にあるとは思えない。しかし、その余力が、得がたい安全

あくまでもシンプル。あくまでも高性能。独創の水冷4気筒SOHCエンジン

微妙なアクセル操作にシャープにตอบสนองし、つねに胸のすくダイナミックな走りを展開するジェッタ。数値的なデータだけで、その秘密を解き明かす

ことはできません。なぜならジェッタの心臓部は、実にさまざまな独創のアイデアと高い技術に満ちているからです。

1715cc SOHCエンジン 最高出力 78HP / 5,000 (DIN) 最大トルク 13.1kg-m / 3,200 (DIN)



レスポンスの良いSOHC

(シングル・オーバー・ヘッド・カムシャフト)方式

ジェッタのエンジンはSOHC方式。しかも、一般のものに見られるロッカーアーム機構がなく、カムが直接バルブを押さげるという、きわめてシンプルな構造。レーシングエンジンにしばしば採用されるこの構造が、ジェッタにすぐれたレスポンスビリティを与えているのです。

静粛性・耐久性にすぐれた

コグッドベルトによるカムシャフト駆動

合成ゴム製のコグッドベルト(歯のついたベルト)でカムシャフトを駆動します。このため、一般のローラーチェーン方式に比べ構造が実にシンプルで、作動音も静か。しかも芯材に7本のスチールワイヤを使い、耐久性も万全です。

高性能と信頼性を極めた機械式燃料噴射装置

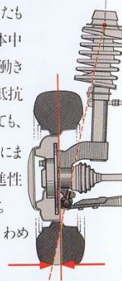
ボッシュ社製K-ジェトロニック

ジェッタは機械式の燃料噴射装置を搭載。高性能と同時に、時代の要請である経済性や、排

クルマ自体が危険を回避する

ネガティブ・ステアリング・ロールラジラスとの

相乗効果が生み、高い安全性
デュアルツインサーキット(2回路式)ブレーキ
ジェッタは、ブレーキ回路を、左前輪+右後輪、右前輪+左後輪の組み合わせでふたつにわけてデュアルツインサーキットブレーキを採用しています。しかも、フロントサスペンションに設定された、無形の組み込み式安定システムともうべきネガティブ・ステアリング・ロールラジラスとの相乗効果によって、万一、片方のブレーキ回路にトラブルが起きても、クルマは直進性を失うことなく安定した姿勢で確実に停止することができます。



フォルクスワーゲンならではのきわめて高度な安全機構です。

気ガスのクリーン化も追求しました。しかも、純粋にメカニズムだけを使った噴射装置で、故障に対する信頼性もひときわすぐれているのです。

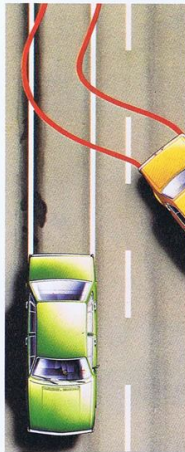
FF方式のアーレージを超えたジェッタのFF方式

ジェッタは、VWのニューゼネレーションカーの例にもれず、FF方式を採用しています。FF方式は、「パワーユニットやパワートレインを一か所に集中してレイアウトできるため、居住スペースをより広くとれる」、「前輪が駆動と操舵のふたつの機能を同時に果たすため、横風などの影響を受けにくく、直進性にすぐれる」など多くのメリットを備えています。しかし、コーナリング中にアクセルを開けると走行ラインが大きく外側にふくらんだり、アクセルを急激に閉じると予想外に内側にまわりこんだりする欠点も見逃せませんでした。しかし、ジェッタは、誰にでも運転のしやすい素直な操縦性が特長。つねにコントロールラブルで、クルマを思いのままに走らせることができる一歩進んだFF方式といえます。

ネガティブ・ステアリング・ロールラジラスとの相乗効果が生み、高い安全性

デュアルツインサーキット(2回路式)ブレーキ

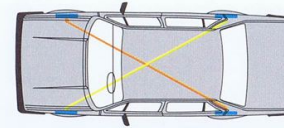
ジェッタは、ブレーキ回路を、左前輪+右後輪、右前輪+左後輪の組み合わせでふたつにわけてデュアルツインサーキットブレーキを採用しています。しかも、フロントサスペンションに設定された、



無形の組み込み式安定システムともうべきネガティブ・ステアリング・ロールラジラスとの相乗効果によって、万一、片方のブレーキ回路にトラブルが起きても、クルマは直進性を失うことなく安定した姿勢で確実に停止することができます。

軽快、ラック&ピニオン式ステアリング

シャープな切れ味と確かな応答性で、多くスポーツカーに採用されているラック&ピニオン式ステアリング。確かな直進性が問われるアウトバーン、軽い操舵感が求められる入り組んだ街中、そして的確な手応えが生命のアルペンロード。実にさまざまな道々を走ることを求められるジェッタだからこそ、新しいクルマでありながら、ステアリングシステムひとつにも伝統が光っているのです。



万一の時にも確実な制動力を発揮する

フロントディスクブレーキ

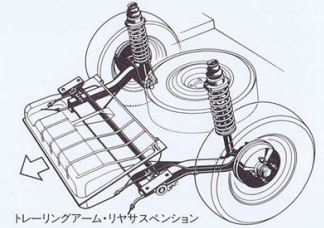
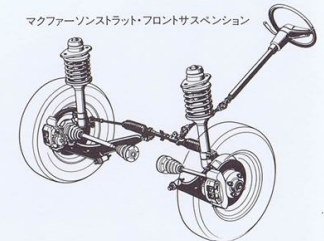
ジェッタは、フロントにディスクブレーキを装着。放熱性、耐水性にすぐれているため、長い下り坂や激しい雨の中でのブレーキング、万一の時のパニックブレーキングでも、確かな制動力を発揮。しかもマスタバック(真空倍力装置)付ですから、軽い踏力で確実なブレーキングができます。ダイナミックな走りは、なによりもまず確かな安全性から生まれるというわけです。

軽快、ラック&ピニオン式ステアリング

シャープな切れ味と確かな応答性で、多くスポーツカーに採用されているラック&ピニオン式ステアリング。確かな直進性が問われるアウトバーン、軽い操舵感が求められる入り組んだ街中、そして的確な手応えが生命のアルペンロード。実にさまざまな道々を走ることを求められるジェッタだからこそ、新しいクルマでありながら、ステアリングシステムひとつにも伝統が光っているのです。

大地をバタリととらえる4輪独立懸架

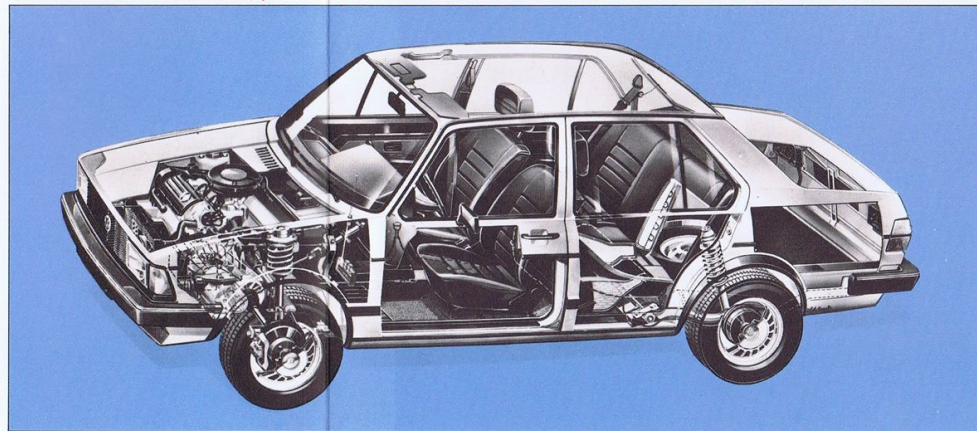
直線路でコーナーで、路面に吸いつくような走りを見せるジェッタ。それは、サルーンというより、まさにスポーツカーの味わいにも似ています。それでいて、あくまでもソフトな乗り心地。一般にロードホールディングの良さや乗り心地の良さは相反するものとされていますが、ことジェッタに関する限り、その常識は通りません。フロントはマクファーソンストラット、リヤはスタビライザ装着のトレーリングアームという4輪独立懸架。強靱にしてしなやかなジェッタの足まわりは、曲折したあのアルペンロードを彷彿とさせます。



トレーリングアーム・リヤサスペンション

ぜいたくから必需へ、スチールラジアルタイヤ

国産車を見ると、スチールラジアルタイヤの装着は高級車種だけにどまっているようですね。これは、スチールラジアルタイヤはぜいたく品であるという誤解のせいではないでしょうか。路面のグリップ力、バーストが起きにくい強靱さ、タイヤそのものの減りが少なく、燃費も低く抑えるなど、スチールラジアルタイヤは、その特性を知れば知るほど、必需品であることがわかります。もちろん、ジェッタは標準装備。



性となつてかえってくることは、確かだ。

ドライバーを守るセーフティステアリング

ハンドルは一定レベル以上の力が加わると、その力を吸収しながら前方へスライドします。また、エンジンルーム側からの衝撃も、ユニバーサルジョイントで確実に吸収。ハンドルが室内につきだして、思わぬ2次の事故を起こす心配がありません。そのうえ、センター部をパッドで覆ったステアリングホイールが、万一の時、ドライバーをやさしく受けとめます。確かな基本の上に、細かな配慮を積み重ねる。こうして、高い安全性が確保されるのです。



シートマウンティングも万全の構え

安全性の確保をテーマとする時、研究すべき箇所は無数にあるといつていいでしょう。そうした徹底的な安全対策のひとつが、鋼鉄のクランプによるこの3点式シートマウントです。衝撃の大ききよっては、シートすらも転倒しかねないという仮定のもとにたて開発された機構です。ジェッタに乗っている限り、そしてこのシートに座ってELRタイプ3点式シートベルトをしている限り、安全は保証される。クルマの安定性はさう言いかれてはじめていくてくるものと、VWは考えます。



鋼鉄のブリッジによる3点式シートマウント

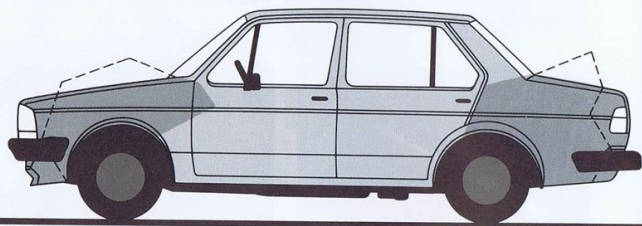
乗る人の安全を守るための、ソフト&ハード

ジェッタは、起きてしまったアクシデントから乗る人を守る安全対策にも万全を期しています。

セーフティセル構造：文字通り、乗る人をガッチリと守るのが、最新の強度計算から生まれた強靱な車室部分。一体構造のいわば堅い殻（セル）で包まれているというわけです。

クラッシュブルゾーン：この堅い殻の前後にあるの

がクラッシュブルゾーン。つまり、エンジンルーム、トランクルームが衝撃時のショックを効果的に吸収・拡散するため、乗る人に与えるショックを最少限に抑えることができるわけです。しかも、このクラッシュブルゾーンには、アコーディオンのようにつぶれるサイドメンバーが張り出し、衝撃吸収の効果をもたらしながら、さらに確かなものになっているのです。



万一の時の配慮はドアロックにまで

ドアロックをしていても大きな衝撃を受けるとドアが開いてしまうことがあります。これを防ぐため、ジェッタはアンチバーストドアロックを採用。衝撃を受けた時、不用意にドアが開いて、乗員が車外に投げだされる心配がありません。また、リヤドアにはチ

ヤイルドブルーフロックを装備。これをロックさえしておけば、室内のドアハンドルをお子様かいたずらしても、ドアは外側からしか開かないため、ドライバーは安心して運転に専念できます。ファミリードライブには欠かすことのできない安全機構です。



フォルクスワーゲンの信頼性は、神話でも伝説でもなく、生きた事実です

ユエラレシエンのテストコースには、この世の地獄が存在する

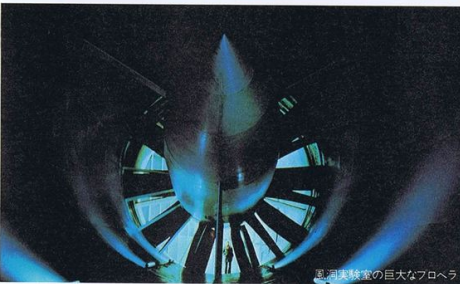
ウォルフスブルグから約25kmの郊外にある広大なテストコース、ユエラレシエン。ここでは、想像を絶する苛酷なコースが、フォルクスワーゲンのクルマを待ちうけています。最高速度の耐久テストを行なう一周21kmのハイスピードトラック、エンジンや電装関係、塗装の耐久テストを行なう塩水の

水たまり（厳寒の冬、路面の凍結を防ぐため、ドイツでは道路に岩塩をまくことが義務づけられています。ですから、塩水の水たまりも決して突拍子もないテストではないのです）、戦車でもテストしたのかと思われる悪路、アルプスの山道を想定したワインディングロードなど、その苛酷さは、クルマ

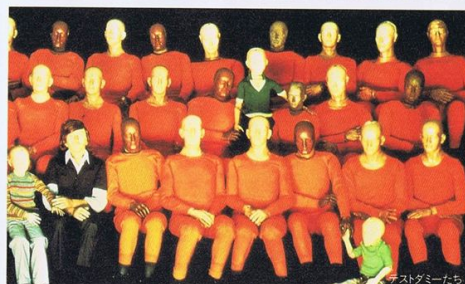
をこわすためにあるのかと思われるほどです。この地獄を通過してはじめて、フォルクスワーゲン車にはあのVWマークをつけることが許されます。こうして、想像を絶する難行を耐え抜き、はかばかのように鍛えられたフォルクスワーゲン車にとって、日本の道は、まさに天国のようなものなのです。



ユエラレシエンのテストコース



風洞実験室の巨大なプロペラ



テストダミーたち

ヨーロッパ最大の風洞実験室で、180km/hの風に身をさらし、美しさに生命が宿る

フォルクスワーゲンの故郷、ウォルフスブルグには、ヨーロッパで最も大きく、最も充実した設備を持つ風洞実験室があります。送風機は、出力3500馬力の大パワーで直径9mのプロペラを回転させるという大規模なもの。だからこそ、180km/hで走行中のクルマが受ける空気抵抗を、現実と寸分たがわず再現できるのです。フォルクスワーゲン車がすべて、空力特性にすぐれたシャープ

で美しいフォルムを持っているのは、この風洞実験室で、厳しいテストを受けた結果にはなやみません。高速走行中でもビタリと安定した姿勢を崩さず、静かに、しかも経済的なドライブを楽しむことができるようにという願いの現れです。

フォルクスワーゲンのテストチームには、愛すべきファミリーがいる

フォルクスワーゲン社には、一生を実験室の中で過ごす49人のファミリーがいます。それは、一体

160万円から700万円もの費用をかけて造られたテストダミーたち。彼らは、ほとんど人間と同じような反応を示すように設計されており、衝突したり、回転したり、投げ出されたり、考えられるありとあらゆるアクシデントを体験することを仕事としています。そして、彼らが生命をかけて集積した貴重なデータは、ジェッタをはじめ、フォルクスワーゲンのすべての車にフィードバックされます。私たちが、安心して運転できるように。そして、確かな安全性をより高いものにするために。

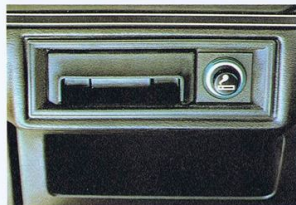
ムダなものは、いっさい省く。しかし、必要とあれば、最も効果的なカタチで装備する。
フォルクスワーゲンの、それが、やり方。

EQUIPMENTS

※輸入される車輛は一部写真と異なる場合があります。



運転席側パーセルシェルフ：運転席側にパーセルシェルフを装備。身のまわりの小物などの整理に便利。



シガーライター：夜間でも位置がはっきりわかります。灰皿も大型で、使いやすいデザインです。



プラスチックカーバンパー：軽い衝撃からボディをしっかりとガード。シンプルな美しさも印象的です。



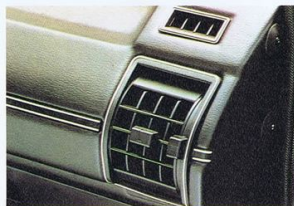
エアコンディショナー：四季を通じて、ジェッタの室内を爽やかに保つ、エアコンディショナーを標準装備。



水温計：針で水温を示すのはもちろんのこと、温度の異常な上昇を警告するウォーニングランプです。



ドアミラー：広い後方視界を確保するドアミラー。しかも窓を開けずに室内から角度調節ができます。



サイドベンチレーター：外気をふんだんに採り入れます。サイドウィンドデフロスターも装備しています。



後席灰皿：後席に乗る方のために、リアドアに灰皿を装備。長距離ドライブにも適した大型です。



アルミホイール：ジェッタのダイナミックな走りより際立たせる、軽量で美しいデザインのアルミホイールです。※他にパワーウィンドも用意しています。



AM/FMマルチカセットステレオ：メタルテープも聴ける、ハイグレードなカセットステレオ（オプション）。

OPTIONAL EQUIPMENTS

ジェッタを美しく装うボディカラーは、
そのまゝ、きわめて堅固なプロテクターとなる。

4色のボディカラーは、ジェッタを装う前に、厳しい試験をくりぬけてきました。それぞれのペイントはパネルに塗られて、1年から3年もの間、アメリカ・フロリダの太陽の下にさらされます。昼間は強い日射しが、夜は塩分を含んだ湿気が、容赦

なくペイント・パネルを痛めつけるのです。こうして何ら変化を示すことのなかった強いペイントを4時間以上もかけて塗装します。ジェッタの美しいボディカラーは、きわめて堅固なプロテクターでもあるのです。

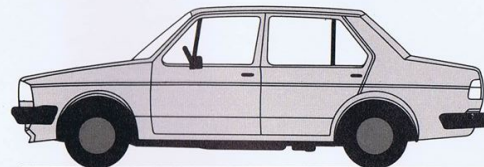
マラガ レッド H5



ガゼル/サドルブラウン GB



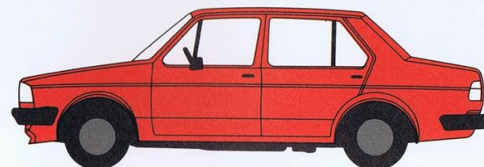
アルパイン ホワイト P1



ブラック/ブラック GA



マーズ レッド G6



ブラック/ブラック GA



レガッタ ブルーメタリック Z6



ロイヤルブルー/ロイヤルブルー GC



☆メタリックペイントをご指定の場合は別途料金が加算されます。
☆ボディカラー、内張りのカラーは、印刷インキの具合で実際の色と多少違って見えますので、ご了承ください。
☆ボディカラー、内張りに関し、このカタログでご不明の点は、フォルクスワーゲン販売店にお問合せください。

装備品、そして諸元の数値ひとつひとつにも、
車づくりの長い伝統が息づいている。

諸元一覧表	
●型式	E-16EN型
●寸法・重量	
全長	mm 4,190
全巾	mm 1,620
全高	mm 1,410
ホイールベース	mm 2,400
トレッド 前/後	mm 1,405/1,370
最低地上高	mm 145
車軸重量	kg 950
乗車定員	名 5
●性能	
最高巡航速度	km/h 155
登坂能力	tanθ 0.40
最小回転半径	m 5.1
●エンジン	
型式	EN型
種類	直列4気筒水冷フロントエンジン
内径×行程	mm 79.5×86.4
総排気量	cc 1,715
圧縮比	8.2
最高出力(DIN) bhp/rpm	78/5,000
最大トルク(DIN) kg m/rpm	13.1/3,200
燃料タンク容量	ℓ 40
使用燃料	無鉛
●諸装置	
クラッチ	トルクコンバーター
トランスミッション	前進3段・後退1段、7ノードマチック
第1速	2.552
第2速	1.448
第3速	1.000
後退	2.462
最終減速比	3.565
フロントサスペンション	マクファーソン・ストラット
リヤサスペンション	トレーリング・アーム
ブレーキ 前/後	ディスク/ドラム
使用タイヤサイズ	175/70SR13

標準装備一覧表	
外 装	フェンダー・アーチ・モール ラバー付センター・モール(クロームメッキ) バルブタイプ角型ヘッドランプ(2灯式) アジャスタブル・ヘッドレスト付フルリクライニングシート(フロント)
室 内	シート
	シートベルト
	計器盤
	オーディオ
内	空調
	ド ア
	天井クォーター
	スモーキング
安	その他
	ウォーニング
	ガード
	ブレーキ
全 性	その他



●本仕様・標準装備・諸元等は予告なく変更される場合があります。●ヤセが日本に輸入する車は、安全対策および排気ガス対策の点で現行の国内基準をすべて満たしています。●道路運送車輻法に基づく保安基準に適合させるため、ミラー、ヘッドレスト、灯火類等改善指示によって行なわれる改造により、輸入車輻はカタログに記載された写真と一部異なる場合がありますので、ご了承ください。詳しくは、より詳しいカタログ・オプション販売店にお問合せください。
●このカタログに掲載の写真は、一部輸入される車輻と異なる場合がありますので、ご購入の際は、セールスマンにお問い合わせください。

アフターサービスは? パーツは? 長期ローンは? ご安心下さい。 ヤナセはご満足いただけるサービスをお届け致します。



最長48回のヤナセ・オートローン。お近くのヤナセネットワークでご相談ください。

ヤナセ・オートローンで、より豊かなカーライフをお楽しみください。お求めやすい長期お支払いのヤナセ・オートローンがご利用になれます。いいものをいつまでも大切にご利用になるお客様のニーズにあったヤナセ・オートローンシステム。提携先がお客様に“自動車購入資金”を融資するシステムです。最長48回お支払いがご利用戴けます。お支払いは銀行口座より自動引落し、手続は簡単、セールスマンが引き受けいたします。お気軽にご相談ください。

これからもヤナセは
サービスネットワークの充実に
努力を続けます。



ヤナセの信頼とJAFの安心。

ヤナセはJAF(日本自動車連盟)との提携により、夜間、休祭日のロードサービスを全面的にJAFに委託しております。ヤナセ取換車(保証付中古車を含む)をご購入いただきますと、入会金と初年度年会費を、取換販売店が負担いたします。ヤナセの信頼とJAFの安心と一緒にお届けいたします。



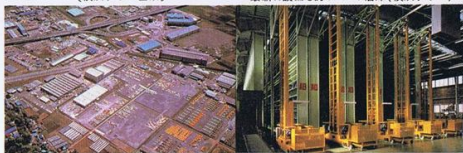
より豊かなヤナセ・ライフをどうぞ。
ヤナセ・メンバーズ・カード

より豊かなヤナセ・ライフをお楽しみいただくために――

- 全国のヤナセのネットワークで、いつでもキャッシュレスでご利用いただけます。
- その場で分割払いもご利用になれます。
- バラエティに富んだ特典を用意しています。

〔横浜デポー全景〕

最新の設備を誇るパーツ倉庫(横浜デポー)



デポーから、全国のネットワークへ。

常にお車を安心してご利用いただくために、北は北海道から、南は沖縄まで、全国に広がるヤナセサービスネットへの部品供給体制の拡充に、絶えず努力を続けています。

● フォルクスワーゲンについての詳細は、下記の販売店にお問い合わせください。

good new days

ヤナセ

総輸入元 株式会社ヤナセ
フォルクスワーゲン・アウトモビル事業部
〒105 東京都港区芝浦1丁目6-38
電話(大代表) 東京(03)452-4311